

# 令和5年度第1回 仙台市立病院経営評価委員会議事録

- 1 日 時 令和5年8月28日(月) 18:00~19:07
- 2 会 場 仙台市立病院 3階第2会議室
- 3 出席者 藤森研司委員長、今西陽一郎委員、島村弘宗委員、鈴木信子委員、矢川昌宏委員、大和一美委員(委員6名)  
奥田病院事業管理者、渡辺院長、伊藤理事、日下次長(兼)経営管理部長、小椋健康福祉局保健衛生部長、佐々木看護部長、佐々木健康福祉局保健衛生部医療政策課長、太田総務課長、堀江経営医事課長、川辺情報システム課長、高橋財産管理課長、福井総合サポートセンター副センター長、佐藤健康福祉局医療政策課医療政策係長、鈴木経営医事課財務収納係長、吉野経営医事課企画医事係長、荻原財務収納係主任、武田診療情報管理士、渡邊診療情報管理士

## 4 次 第

- 1 開 会
- 2 挨 拶
- 3 報 告
  - (1) 令和4年度 事業実績及び決算(速報)について
  - (2) (仮称)仙台市医療政策基本方針の策定について
- 4 議 事
  - (1) 仙台市立病院経営計画(2022年度~2024年度)進捗状況について(2022年度実績及び2023年4月~6月実績)
- 5 そ の 他
- 6 閉 会

## 配付資料

- 資料1-1 令和4年度事業実績
- 資料1-2 令和4年度決算(速報)の状況
- 資料2 (仮称)仙台市医療政策基本方針の策定について
- 資料3 仙台市立病院経営計画(2022年度~2024年度)進捗状況

## <議事概要>

- (1) 開会
- (2) 挨拶  
奥田事業管理者から挨拶。
- (3) 報告
  - ・会議公開の確認⇒異議なし(傍聴者なし)。
  - ・議事録署名委員を鈴木委員、矢川委員に依頼。⇒了承。

### ① 令和4年度 事業実績及び決算(速報)について

(事務局から資料1を説明)

(質疑応答)

#### 【今西委員】

コロナの影響が、年度の途中まで少し見られたと思うが、それを何とか脱して、令和2年、3年、4年の実績を見てもすぐにわかるが、いわゆるV字回復を果たしている。

参考までに後程、事務局から報告があると思うが、令和5年4月から6月における入院単価が8万3,000円になっている。

V字回復の勢いがまだ続いているようにも見えるので、このまま頑張っていただけならばと思う。

もう一つはコロナ補助金が、今後カットされると想定されるため経常収支は厳しくなるので医業収益をしっかりと確保して欲しい。

【矢川委員】

今期の決算の状況については、今西委員がおっしゃった補助金の減少に伴って経常損益も減少したが、その他の指標については、外来の単価以外は増えている。救急患者の受け入れ数も増えている。

あともう1つは8月に財政健全化比率について病院事業会計と下水道事業に関する過去5年間の修正をしている。

私も監査委員等、会計士協会委員をしているが、実質公債比率と将来負担率に関して準元利償還金の誤りについて満期一括地方債をどうするか或いは、一般会計等から繰出金に誤りがあったと思うのだが、そこのところ伺いたい。

【仙台市立病院事務局 堀江経営医事課長】

準元利償還金について満期一括償還などの選択のミスではなく、元利償還金を回答すべきところを対象ではない金額を足してしまった。作成時に統計表の引用する数値の欄を誤ってしまった。単純な間違いということであった。

【矢川委員】

承知した。あとで再審査意見が出るのか。

【仙台市立病院事務局 堀江経営医事課長】

後程、監査から再審査意見が出る。

【藤森委員長】

一般病床稼働率が80%程ということだが、もうひと頑張りして欲しいと思う。その辺のところはどうか。

【仙台市立病院事務局 奥田事業管理者】

もう少し入院患者数を伸ばしたいところであると考えている。クリニックの受診患者もまだ平常には戻っていないようであり、そのため当院の紹介患者数もまだ十分だとは言えない状況である。手術をもっと積極的に受け入れていくことでもう少し伸びると見込んでいる。また、精神科病床の利用率に関して、今までコロナ患者を精神科病床に受け入れていたために伸び悩んでいたが、令和5年度はコロナ患者を受け入れていないのもう少し伸びていくと考えている。

【藤森委員長】

病床を有効に使っていただいてもう少し伸ばしていくということで宜しくお願いしたい。

## ② (仮称) 仙台市医療政策基本方針の策定について

(仙台市健康福祉局保健衛生部から資料2を説明)

(質疑応答)

【矢川委員】

今回の(仮称)仙台市医療政策基本方針と公立病院経営強化プランとのかかわりについて興味を持って資料を見させていただいた。

県内に多くの公立病院がある中、仙台市は政令指定都市であることから県の市町村課の対応としても積極的な行政指導するというよりは、仙台市がイニシアチブをとって進めている印象がある。経営形態については、政令指定都市ではあまり独法化している例はないのか。また、公立病院経営強化プランの提出は、10月くらいを予定しているのか。

【小椋仙台市健康福祉局保健衛生部長】

経営形態の部分については、平成の時代に西日本において大部分の政令指定都市では各市立病院を地方独立行政法人化する動きが活発に行われてきた背景がある。比較して、東日本では、地方公営企業法の全部適用を維持する例がほとんどであり、令和の時代となっても地方独立行政法人化の動きがない状況である。

公立病院経営強化プランについては、前回の当委員会でも説明したとおり、県で地域医療構想を進めていくうえで、公立病院ごとの進捗を確認する必要があることから、令和5年10月に県で事前協議、12月に案を県に提出するスケジュールとなっており、そのスケジュールに合わせて対応していく。

【今西委員】

地域包括ケアシステムの中で、仙台医療圏では回復期及び慢性期病床の中でも特に回復期病床が足りないとの説明がありましたが、他の地域をみても総合診療医の育成が本格的に進んでいないところが、回復期病床がなかなか増えてこない原因の一つのように考えている。そのため、第6章第1節2項の公立病院経営強化プランの内容の中に、「地域包括ケアシステムの充実強化に向けて、果たすべき役割機能」という項目があるが、単に仙台市立病院の診療機能のことを記載するのではなく、例えば、積極的に総合診療医を育成するための対策などを内容に含めても良いのではないかと考える。特に、全国的に総合診療医を育成するときに問題となるのは指導医がいない点であるため、そのような内容を何か盛り込むことができないだろうかと思ったところである。

【仙台市立病院事務局 奥田事業管理者】

当院の救急科には、総合診療に興味をもっている医師がいるため、その医師を中心とした若手医師の育成に繋げていく体制を検討していければよいと考えている。

【小椋仙台市健康福祉局保健衛生部長】

総合診療医に関しては、今西委員からご指摘いただいたとおり、救急医療の分野においても必要性が高いと感じてはいるものの、基礎自治体の方で、人材育成の部分を直接的に関与することは仕組み的に容易ではない状況である。そのため、宮城県に対しては、東北大学に加え、東北医科薬科大学という新たな人材育成の機関においても本格的に医師の育成、輩出という機能を果たしていくと想定されることから、救急医、総合診療医の育成について明示的な仕組み化の検討や自治医科大学についても同様の観点からの仕組み化などの提案を宮城県からも行っていただけないかという調整を進めている。

(4) 議事

① 仙台市立病院経営計画（2022年度～2024年度）進捗状況について

（2022年度実績及び2023年4月～6月実績）

（事務局から資料3を説明）

（質疑応答）

【今西委員】

4月から6月の直近3か月で実績が落ちている項目もあるが、これはデータを見てみると特に4月、5月の実績が落ち込んでいたが、6月になって回復している傾向であることから、あまり気にする必要はないかと思う。

【藤森委員長】

2ページ目「戦略Ⅰ-2：更なる高度医療提供体制の構築を目指す」の「2022年度主な取組状況」に関して、外来化学療法室を8床増床したのにもかかわらず、4月から6月の直近3か月実績は2022年度の実績にも届いていない現状をどのように考えたらよいのか。

がん患者が減っていることはないと思うが、化学療法対象患者が外来ではなく入院患者に回っているのか、それとも別な理由で病床を使えていないのか。

【仙台市立病院事務局 奥田事業管理者】

4月から6月の件数が少ない原因は、はっきりしていないが、7月の実績では件数が伸びているため、今後は件数が増加していくのではないかと考えている。

【藤森委員長】

せっかく増床して16床もあるので、1日16名を目標に頑張っていたきたい。

【矢川委員】

7ページ目「戦略Ⅱ-4：費用の抑制を図る」の「2023年度主な取組状況」において、診療材料費については、引き続き全国自治体病院協議会のベンチマーク情報を活用するとの記載があるが、全国自治体病院の診療材料費の平均値に関する情報が提供されるのか。

【仙台市立病院事務局 高橋財産管理課長】

全国自治体病院協議会よりデータをいただいている。そのデータを活用しながら、当院の材料費が高いか安いのかを把握して、交渉に活かしている。

【矢川委員】

自治体病院であれば、全国自治体病院協議会からデータが提供されるのか。

【仙台市立病院事務局 高橋財産管理課長】

その通りである。

【藤森委員長】

6 ページ目「戦略Ⅱ-2：施設機能の無駄のない活用を図る」に関して、ICU 病棟、HCU 病棟の稼働率がもう少し頑張れないか。一般病棟の稼働率より低いのではないか。

ICU 病棟、HCU 病棟は人員配置が厚く、単価が高い病棟であるため、民間病院はこの稼働率をまず上げるように取り組んだりしているが、貴院は、使用するにあたって厳しい入室基準等を設けていたりするのか。

【仙台市立病院事務局 奥田事業管理者】

厳しい入室基準等を設けているわけではないが、改めて入室基準を確認し、より多くの患者を受入れるようにしていきたいと考えている。

【藤森委員長】

ICU 病棟の重症度、医療・看護必要度の基準値をクリアしているのであれば、一般病棟に在棟中の比較的重症な患者を ICU 病棟で管理し、9 割稼働を目指すというのも一つの手法かもしれない。また、ICU 病棟がオーバーフローとなった場合は、HCU 病棟に転棟させるなど、ICU 病棟と HCU 病棟を一体的に活用している病院事例は多い。ぜひ、有効利用に関して検討していただきたい。

7 ページ目「戦略Ⅱ-3：適正な人員管理を図る」の具体的な取り組み「①医療需要を考慮した職員数の適正化」に関しては、目標値が設定されていないが、どのように評価していくのか。

【仙台市立病院事務局 奥田事業管理者】

職員数の適正化については、他施設との比較や収益とのバランスを考慮しながら検討する必要があり、増員等する場合は、市職員定数条例の管理下であり市長部局との協議する必要があるため、なかなか目標値の設定及び評価は難しいところである。

【藤森委員長】

増員してもらえれば、このくらの収益を上げることが可能といった交渉で、経営人が判断に苦しむことはよくあることである。

市立病院の昨年度の正職員数は、22 人増えているにも関わらず、トータルでみると収支の改善につながっていないのが現状である。評価していくのは難しいところではあるが、評価指標がなく、お題だけでは何も取り組んでいないと思われるため、5 年後、10 年後の市立病院のグランドデザインなどを示しながら、その中でも伸ばしていく部門、縮小していく部門があってしかるべきだと思うので、ぜひ取り組みを進めてほしい。

【大和委員】

地域包括ケアシステムの推進に関して、地域へ向けて、当院の役割や強みについて情報発信を図る取り組みでは、YouTube などをもっと活用し、発信していることが患者満足度の向上に寄与したことや入院患者や外来患者の増加につながっているのではないかと思う。

【藤森委員長】

紹介等に関しては、医師会の要望等はないのか。

【大和委員】

貴院へ紹介すると、多くの救急患者を対応してもらえることもあり、再度、貴院へお願いしたいという開業医もある。また、高度な治療をお願いした際に、その治療経過等を詳細に情報提供してもらえるところについても非常に開業医としても満足度が高くなっていると思う。

【藤森委員長】

後方病院確保に関して、島村委員からご意見はあるか。

【島村委員】

後方病院の確保は、病院周りをお願いしていくしかないかと考える。仙台医療センターも病院周りをお願いしている状況である。

【藤森委員長】

顧客満足度に関しては、鈴木委員いかがか。

【鈴木委員】

顧客満足度に関してすばらしいと思う。

忙しさもある中、看護師の患者の話を聞く姿勢が評価されたことについては、このまま継続してもらうことと看護師数を充実させながら、量的にも質的にも優秀な看護師確保を期待したい。

【今西委員】

先ほど、藤森委員長がおっしゃっていた6ページのICU病棟とHCU病棟の稼働率が低いという点について、同ページのDPC入院期間Ⅰ、Ⅱ割合の合計をみると、2022年度の実績が65.5%であり、2023年度の実績が目標の73.0%に対して、4月から6月の直近3か月では69.2%まで上がっていることに加え、平均在院日数も短くなっている状況である。また、入院の診療単価は8万3,000円ぐらいであることを踏まえ、藤森委員長がおっしゃった通り、全体的に稼働率をもう少し上げる必要があるため、全ての患者さんを一律に行うことは無理だとは思いますが、患者さんの状態を見ながらICU病棟やHCU病棟の在棟日数をコントロールすることも必要ではないかと考える。

【藤森委員長】

稼働率向上には、いろいろと手法はあるかと思うが、ICU病棟とHCU病棟は人員配置が厚い病棟でもあり、そこに余裕がある状況はいかかなものかと感じるため、積極的に人も施設も有効活用していってほしい。

(5) その他  
⇒ なし。

(6) 閉会

以上

議事録の記載内容につきまして、すべて相違ありません。

令和 5 年 10 月 14 日

議事録署名委員

鈴木信子

天川昌宏



